

学級活動指導案

平成17年6月22日(水)第3校時

5年4組(教室) 指導者 石田 俊彦

(授業の視点)

「実践への意欲付け」の場面で、「課題把握」や「課題追究」での学習を踏まえさせて、自分のめあて等を実際にかく活動を取り入れることによって、児童一人一人の思いや行動目標などが整理されて、意欲的な実践活動に結びつけられるであろう。

1 題材名 食生活を見直そう <(2)-(カ)>

2 題材設定の理由

(1) 学習指導要領における位置

本題材は、小学校学習指導要領「第4章特別活動 第2内容 A学級活動」の「(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。」の「(カ) 学校給食と望ましい食習慣の形成」に基づいて設定されている。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、男子17名女子16名の計33名である。(これ以外に「わかくさ学級」からの通級児童が1名いる。本題材については通級の予定はない。)全体の雰囲気は明るく活発である。また、素直であり、自分の短所や欠点を改善していこうとする態度を示す児童が多い。

本題材の学習に直接かかわる児童の実態について記述する。事前に実施した食生活にかかわる意識や実際の状況等の調査および給食時における観察から次のように把握できた。

ほとんどの児童が朝食をきちんと食べているが、食べない時がある児童も数名いる。(毎朝...82%、ほとんど毎朝...15%、食べないことが多い...3%)

朝食を食べた時と食べない時の体の調子や学習意欲については、体験に基づいてよく理解している。(【食べた時】...調子、元気、やる気が出る。集中できる。【食べない時】...調子、元気、やる気が出ない。集中できない。気持ちが悪い。おなかがすく。)

食べ物に対して好き嫌いのある児童が多い。(何でも食べられる...19%、少し好き嫌いがある...55%、好き嫌いが多い...26%)

児童の嫌いなものは、野菜が多い。(嫌いなものトップ5...ピーマン、なす、きのこ、にんじん、ゴーヤ)

嫌いなものを食べられるようにするための努力や工夫をしている児童が3分の2近くいる。(している...22%、少ししている...40%、殆どしていない...13%、全然していない...25%)

好き嫌いなく食べることが大切であると思っている児童は多い。(思う...64%、少しだけ思う...30%、あまり思わない...3%、全く思わない...3%)

好き嫌いなく食べることの大切さの理由を理解している児童は多い。一方全く理解できていない児童も数名いる。

実際の給食時の観察の様子...かなりの食品が残されている状況である。4月当初より「体

調などの理由により食べられない時以外はできるだけ残さず食べるようにしよう。」と指導をしてきてはいるが、なかなか改善されない状況である。

以上のことから、児童は食べ物を好き嫌いなく食べることの大切さを表面的には理解しているものの、本質的な部分での理解は十分にはされておらず、毎日の食生活の中での切迫感を感じていない状況であることが分かる。そのことが給食時での現状につながってしまっているものと思われる。これは家庭でも同様であることが推察される。

児童は、前述したように、本来は素直で向上心があるので、正しい食生活のあり方をしっかりと理解し、実践目標等が確立すれば、好き嫌いなく食べるよう努力するものと思われる。その際に、既に正しい食生活ができていた児童の考え方や食生活の習慣等を模範とさせることもできるものと考えられる。

【校内研修にかかわる実態】

本校の校内研修で目指している児童像は、「目的や場面に応じて適切に文章表現できる児童」である。

この児童像を目指し、4月当初より国語科をはじめいくつかの場面で以下のような「書く活動」を少しずつ取り入れてきている。

国語科...作文「5年生になって」「春の遠足」、お礼の手紙書き、説明文の要点のまとめ

社会科...調べ学習「米作り」のまとめ

算数科...ノートへの書き込み（自分の考え、友達の考え、感想、分かったこと、疑問など）

理科...観察や実験の結果等の記述

総合...「パソコンで作文」

帰りの会での連絡帳への記述「一日の感想」「先生の話」「係や委員会からの連絡」等

このような活動をしてきた児童の「書くこと」にかかわる状況は以下の通りである。

書くことへの抵抗感が少しずつ減ってきている。

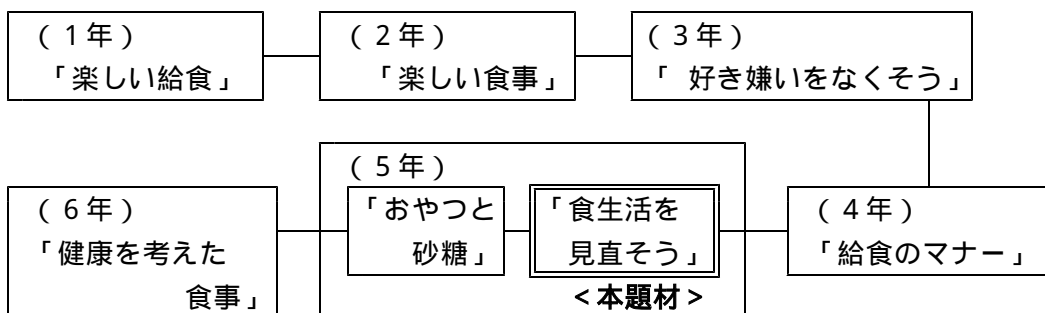
文章の表現力が豊かになった児童がほんの少し増えてきている。

(3) 題材観

日本社会では物が豊かになり、食生活が欧米化するとともに、食に関する意識が低下して簡単に偏食をしたり無闇に間食をしたりしてしまう人が多くなったと言われるようになって久しい。このような食生活の習慣の悪化は、癌、高血圧、糖尿病などのいわゆる生活習慣病の発症の大きな原因の一つであり、近年では成人はもちろん、子ども達にも蔓延していることが認識されている。

このようなことは、本学級の児童においても例外ではない。偏食や間食等の食生活の乱れた習慣が身に付いてしまっている児童が多く見られる。そして、その習慣が自分の将来にどのような悪影響を与えてしまうか深く認識している児童は少ないように見受けられる。そんな児童に対して、食に対する正しい認識をさせ、自分の悪い食生活習慣を改め正しいものを確立させるような働きかけは、必要なことであり大変有意義なことと考える。ここでは、特に「偏食」に焦点をあてて、食生活に対する見直しをさせていきたいと考え、本題材を設定した。

(4) 題材の系統性



3 指導の目標

正しい食生活について理解を深め、よりよい食生活習慣を身に付けようと努力することができる。

4 評価規準

B 規準「おおむね満足できる状況」	A 規準「十分満足できる状況」
正しい食生活のあり方について理解し、自分の食生活の習慣について振り返るとともに、少しでも好き嫌いをなくし、健康的な食生活を送ろうとしている。	正しい食生活のあり方について深く理解し、それに照らし合わせながら自分の食生活の習慣の善し悪しについて十分に振り返るとともに、好き嫌いをなくす具体的な手立てを考え、実践しようとしている。

5 指導方針（校内研修や人権教育、社会福祉教育にかかわる支援は とする。）

学習過程を「課題把握」、「課題追究」、「実践への意欲付け」の3段階に分け、学習活動を組み立てる。

「課題把握」の場面では、

- ・食に対する意識や現在の状況にかかわる調査の結果を示すことで、自分自身や級友の実態に気づかせる。
- ・調査の結果は、グラフ等の掲示物を提示することで、視覚的に理解しやすいようにする。

「課題追究」の場面では、

- ・ビデオ教材「野菜のチカラ」を活用し、偏食が体に与える悪影響や正しい食生活のあり方について、理解させる。
- ・ビデオ教材の視聴後、理解を深めさせるために、内容を振り返る時間を設定する。

「実践への意欲づけ」の場面では、

「好き嫌い0作戦」カードに記入させることで、具体的なめあてを立てさせ、実践の意欲を喚起させる。

- ・めあてや具体的な方法などを発表させることで、集団としての実践意欲を喚起させる。
- 正しい食生活の習慣を身に付けている児童や努力している児童の意見を意図的指名により適切に活用する。

一人一人の意見をしっかりと聞き、お互いに参考にしようとする温かい雰囲気を作る。

6 指導と評価の計画（1時間予定）

時間	主な学習活動	学習活動への支援及び留意点 (校内研修や人権教育・社会福祉教育にかかわる配慮事項には など)	観点 主な評価項目 (方法)
事前	食にかかわる調査への回答	・現在の状況について、正直に記述できるような言葉かけをする。	
1 本時	自分や級友の食生活の問題点に気づく。 正しい食生活について理解する。 好き嫌いをなくすめあてを立てる。	・視覚的に理解しやすいように提示の仕方を工夫する。 ・ビデオ教材「野菜のチカラ」を視聴させ、好き嫌いが健康に与える悪影響について具体的に理解させる。 ・「 <u>好き嫌い0作戦</u> 」カードに具体的に記入させる。	理 好き嫌いが健康によくないことを理解している。(発言内容、学習カードへの記述内容) 関 好き嫌いをなくし自分の食生活をよりよいものにしようとしている。(学習カードへの記述内容)
事後	実践活動 反省・学習カードへの記述	・励ましの声かけやカードへの記述をすることで、実践意欲を継続させる。 ・学級通信や朝の会等で努力できている級友の紹介をすることで、集団としての実践意欲を喚起させる。	関 好き嫌いをなくす努力をしている。(学習カードへの記述内容、給食時の様子)

7 本時の学習

(1) 活動のねらい

正しい食生活について理解を深め、好き嫌いをなくし、よりよい食生活習慣を身に付けようとする意欲を高めることができる。

(2) 準備

(教師) アンケート結果(掲示用)、ビデオ教材「野菜のチカラ」、ポイントカード、「好き嫌い0作戦」カード

(児童) 筆記用具



(3) 展開


学習過程	主な児童の活動	時間	支援及び留意点 (校内研修関連、人権教育・社会福祉教育的配慮には など)	観点 評価項目 おおむね 十分 (方法) 努力を要する児童への手だて
課題	学習課題をつかむ。 「食生活を見直そう」	10	・グラフ化するなど視覚的に理解しやすいように提示の仕方	

把握	自分や級友の食生活の問題点に気づく。	分	を工夫する。	
課題追究	正しい食生活について理解する。 ・ビデオ教材「野菜のチカラ」の視聴 ・食生活が健康に与える影響についてまとめる。	20分	・ビデオ教材「野菜のチカラ」を視聴させ、好き嫌いが健康に与える悪影響について具体的に理解させる。 ・ビデオ教材の視聴後、理解を深めさせるために、内容を振り返る時間を設定する。	理 好き嫌いが健康によくないことを理解している。 好き嫌いが健康にどんな悪影響を与えるか具体的に理解している。 (発言内容、学習カードへの記述内容) 級友の正しい発言内容を確認させたり、ビデオの内容を振り返らせたりする。
実践化への意欲付け	好き嫌いをなくすめあてを立て、具体的な努力や工夫について考える。 ・「好き嫌い0作戦」カードへの記入発表	15分	・「 <u>好き嫌い0作戦</u> 」カードに <u>具体的に記入させる</u> 。 ・正しい食生活の習慣を身に付けている児童や努力している児童を意図的に指名する。	関 好き嫌いをなくし自分の食生活をよりよいものにしようとしている。 好き嫌いをなくすための具体的な方法を考え実践しようとしている。 (学習カードへの記述内容) 好き嫌いが健康に与える悪影響について具体的に再確認させる。

8 参考資料


(1) 「好き嫌い0作戦」カード


「好き嫌い0作戦」カード




5年4組 () ()

☆食べ物の好き嫌いをしていると・・・

☆自分の現在の好き嫌いの状況は・・・




◎これからの自分のめあて


※具体的な努力の方法や工夫

☆1週間の実践の様子 ◎…完食 ○…少し努力 ×努力できず

	2 2 (水)	2 3 (木)	2 4 (金)	2 5 (土)	2 6 (日)	2 7 (月)	2 8 (火)	
朝								※20日以内 に提出しな い！
昼								
夕								

(1週間の反省)



(おうちの人から)

(先生から)

課題 「食生活を見直そう！」

アンケートの結果のグラフなど

1. 朝ごはんを食べる習慣がある人は何パーセントですか？

朝ごはんを食べる習慣がある人は、朝ごはんを食べないよりも多いことがわかりました。

2. 野菜を毎日食べる人は何パーセントですか？

野菜を毎日食べる人は、野菜を食べないよりも多いことがわかりました。

3. 野菜の種類を多く食べる人は何パーセントですか？

野菜の種類を多く食べる人は、野菜の種類を少なく食べるよりも多いことがわかりました。

4. 野菜を多く食べる人は何パーセントですか？

野菜を多く食べる人は、野菜を食べないよりも多いことがわかりました。

5. 野菜を多く食べる人は何パーセントですか？

野菜を多く食べる人は、野菜を食べないよりも多いことがわかりました。

ピデオ「野菜のチカラ」

* 1日に必要な野菜の量
小学生 … 440g
中学生 … 500g

野菜を食べないと病気になる。血管がなる。

子どものころから
食べ物の必要がある

野菜（ビタミンC、カロテン、食物繊維など）

健康な細胞ががん細胞に変化するのを防ぐ。疲労回復に役立つ。目や肌を保湿する。

ビタミンC … 100mg
ビタミンC … 100mg

「好き嫌い0作戦」

